

自然教育園入園者による園内鳥類の記録

川内 博^{1,*}・遠藤拓洋²・吉野由美子²・亀岡万里奈²

¹都市鳥研究会, ²国立科学博物館附属自然教育園

Hiroshi Kawachi¹, Takumi Endo², Yumiko Yoshino², Marina Kameoka²: Records of birds in the Institute for Nature Study by visitors. Miscellaneous Reports of the Institute for Nature Study (57): 23–28, 2025.

¹Urban-Bird Society of Japan, ²Institute for Nature Study, National Museum of Nature and Science

はじめに

本稿は、自然教育園の生物相について、その記録をより多面的に残すための一環として作成したものである。本園の入園者には動植物の観察・撮影を目的とし、専門的な知識やプロ並みの機材やスキルを持った方も多い。そのような方からの本園へ寄せられた鳥類に関する情報を「記録」として残すため、検討し整理したものである。

園内の生息鳥類については、開園以来の記録が残され、近年では川内らが、全域を対象としてセンサスを実施している（川内ほか、2016）。しかし、調査コース・範囲・時間・回数などが限定されているため、コース以外の場所・時間での状況は把握できていない。

本稿は、上記のような限定された調査結果だけでなく、バードウォッチングや野鳥撮影などのために入園された方の記録を収録することにより、広範囲に本園の鳥相を知ることができるという趣旨で作成した。

今回は初めての試みで、事前に意図をもって収集した記録ではなく、自主的または依頼によって観察・記録された情報のため、データとしては「観察種・年月日・おおまかな場所・報告者名」が列記されているだけだが、1578件の情報から成り立っている。

調査方法

本園職員らによって、1週間ごとに収集されている動物記録情報のうち、鳥類種の記録1578件から各種の情

報を収録した。対象の期間は2022（令和4）年11月27日～2024（令和6）年12月26日までとした。なお、元となった動物記録情報は鳥類のみでなく、網羅的に様々な分類群について収集されており、1週間ごとに自然教育園HP〔<https://ins.kahaku.go.jp/index/php>〕の「見ごろ情報」内で公開されている。また、本稿のデータについては、筆者らに加え、岡田朋子氏、賀島 勇氏、穴戸奈生子氏、島田 一氏、本多菊太郎氏より寄せられた情報が中心となっている。なお、本稿のデータは、おもに目視によるものだが、写真撮影されている場合も多い。なお、比較的珍しいマミジロキビタキについては、写真撮影はされていないが、複数の方により目視確認されているので記録として収録した。配列・種名は日本鳥類目録改訂第8版（日本鳥学会、2024）に準拠した。

調査結果

1. カルガモ：2021年11月27日～2024年10月31日の間に83件の記録がある。ひょうたん池・水生植物園・水鳥の沼・いもりの池などで観察され、最大20羽が記録されている。また、2024年5月から7月まで水鳥の沼・水生植物園でヒナ連れが確認されている。
2. マガモ：2022年11月27日～2023年1月12日の間に21件の記録がある。冬鳥としてひょうたん池・水鳥の沼で少数観察されている。
3. コガモ：2023年2月25日・2024年1月24日の2

*E-mail: hkawachi2dream@yahoo.co.jp

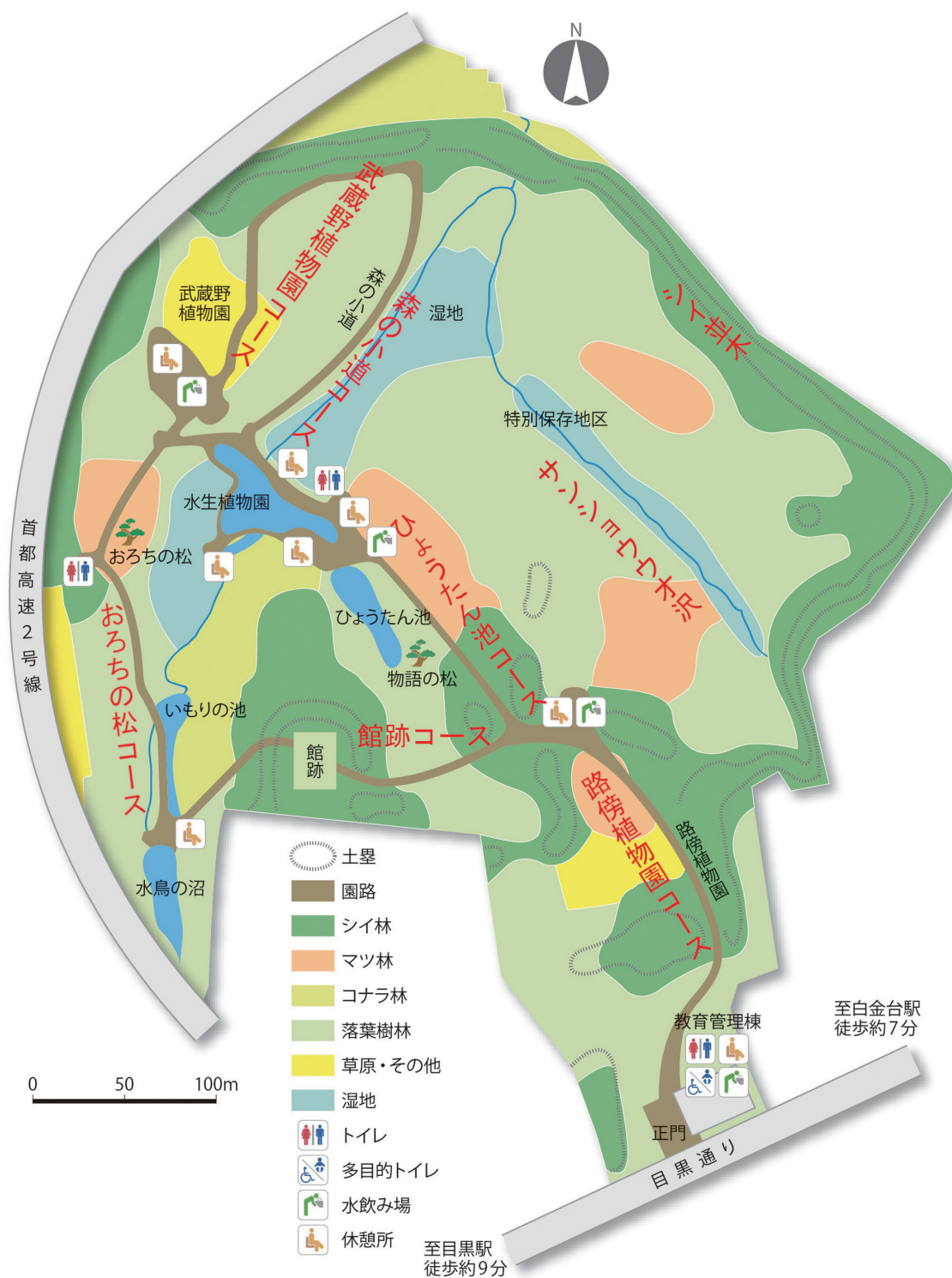


図 1. 園内地図 新リーフレットより

件の記録がある。場所・数は不明。2023 年 12 月 14 日には水生植物園で雄 1 羽を川内が記録している。

4. キンクロハジロ：2023 年 1 月 18 日～2023 年 2 月 21 日の間に 4 件の記録がある。場所はいずれも水生植物園で、羽数および雌雄について情報はない

が終日同地にいたとのこと。同年2月16日、川内
がセンサス時に水生植物園の池で雄1羽を記録し
ている。

5. ツツドリ：2023 年 10 月 27 日・2024 年 10 月 2・10
日の 3 件の記録がある。山地部に渡来する夏鳥で、
秋の渡りの時期に、水生植物園や中央湿地で観察

されている。

6. ホトトギス：2023年5月17日・2024年5月15日の2件の記録がある。2023年は1羽が鳴きながら園内を飛び回っていた。2024年はサンショウオ沢で記録されている。
7. キジバト：2022年12月21日～2024年10月17日の間で59件の記録がある。全域で周年記録されているが、繁殖・営巣に関わる報告はない。冬期は集団（10～20羽）で、林床で採餌していることが多い。
8. アオバト：2022年12月20日に、森の小路で樹上に止まっているのが記録されている。本種は森林性で、おもに山地の留鳥として生息していて、冬期に漂行し、都心の緑地でも観察されることがある。
9. クイナ：2023年3月21日に1件、水生植物園で記録・撮影された。水辺に渡来する冬鳥で、園内を通過したと思われる。
10. タシギ：2023年11月22日に1件記録された。いもりの池、水鳥の沼で観察されている。本種は水田や湿地に渡来する冬鳥で、移動の際に本園に立ち寄ったものと思われる。
11. カワウ：2023年3月1日～2024年5月23日の間に8件の記録がある。おもに水生植物園で、ひょうたん池も1例ある。大きめの魚を食べているところも観察されている。留鳥として、都内各地の水辺に飛来している。
12. ミゾゴイ：2023年4月29日、閉園後に記録・撮影された。いもりの池～水生植物園を歩いているのを認めたとのこと。夏鳥で、奥多摩などの山林で少数繁殖しているので通過の途中と思われる。
13. ゴイサギ：2023年6月25日～2024年2月2日の間で8件の記録がある。そのうち4件は幼鳥とのこと。場所は水生植物園やいもりの池と水鳥の沼の間の水路など。留鳥であるが、近年減少が著しい。
14. アオサギ：2022年12月6日～2024年10月までの間に27件の記録があり、ほぼ通年で記録されている。個体数は記されていないが、筆者の観察からは1羽と思われる。水生植物園・中央湿地・水鳥の沼・ひょうたん池などの水辺で、採食場として飛来している。
15. ダイサギ：2022年12月11日～2024年6月19日の間に43件の記録がある。水生植物園、水鳥の沼、いもりの池、ひょうたん池で観察されている。個

体数は2羽の時もある。留鳥として、都内各地の水辺に飛来している。

16. コサギ：2024年2月15日～2024年4月11日の間に9件の記録がある。場所はほとんどが水生植物園で、いもりの池や作業舎付近での例もある。留鳥として、都内各地の水辺に飛来している。
17. ツミ：2023年1月8日～2024年10月17日の間に8件の記録がある。水生植物園や水鳥の沼、武蔵野植物園で認められ、雌の観察もある。本種は小型のタカで、近年は留鳥と考えられている。
18. ハイタカ：2022年12月1日～2024年10月24日の間に27件の記録がある。観察は10月～4月で冬鳥として生息し、ツグミの群れを追ったり、オオタカに追い払われる姿が観察されている。
19. オオタカ：2022年12月11日～2024年10月6日の間で70件の記録がある。本種は2017年から園内で営巣し、2018年以降は毎年ヒナが巣立っている（川内ほか，2019；濱尾ほか，2019；遠藤，2024他）。観察はおもに鳴声かひょうたん池での水浴びでの記録である。なお、幼鳥が園内でカラストラップ（東京都による事業）内に入り、カラス3羽を捕食したという事例がある。
20. トビ：2023年11月28日～2024年2月1日の間に5件の記録がある。水生植物園や武蔵野植物園などで観察。時期は11月～2月で冬鳥として飛来する。
21. ノスリ：2022年12月1日～2024年10月24日の間に22件の記録がある。水生植物園で単独で観察されることが多く、記録は10月～4月に集中し、冬鳥として飛来している。
22. フクロウ：2023年3月1日～2023年6月11日の間で20件の記録がある。ほぼ年間を通して記録されていて留鳥と思われる。庭園美術館との境界付近やカワセミ池あたり、森の小路、実験畑方面などから鳴声が確認されている。カワセミ観察用のビデオに映っていたこともあった（樋口ほか，2024）。
23. カワセミ：2022年11月27日～2024年10月22日の間に116件の記録がある。ひょうたん池・水生植物園・水鳥の沼・いもりの池などでよく観察されている。幼鳥も記録されているが園内では営巣していない。以前長期間使用していたカワセミ池壁面の穴は現存するが繁殖にはいたっていない。
24. コゲラ：2022年12月21日～2024年10月22日の間で61件の記録がある。場所は園内全域で、姿や声、ドラミングなどで確認されている。営巣や給餌、

幼鳥確認などの情報もある。

25. アカゲラ：2023 年 10 月 19 日～2024 年 4 月 2 日の間に 14 件の記録があり、10・11 月、2～4 月に記録されている。場所は武蔵野広場・森の小道・路傍植物園などで、個体数は 1 羽と思われる。
26. アオゲラ：2021 年 12 月 27 日～2023 年 4 月 2 日の間に 8 件の記録があり、いずれも 12 月～4 月の冬期で個体数は雄 1 羽と思われる。本種は 2010 年代前期の川内らのセンサスでは雌雄を認めたが、巣穴などは発見していない。
27. チョウゲンボウ：2024 年 3 月 19 日に水生植物園で記録された。通過と思われる。
28. ハヤブサ：2022 年 12 月 25 日に、水生植物園休息所奥で記録された。通過と思われる。
29. サンショウクイ：2024 年 4 月 19 日・5 月 2 日の 2 件の記録がある。武蔵野植物園付近、森の小路で観察。山地で繁殖する夏鳥で、春の渡りの途中で本園を通過した個体である。なお、19 日の事例はリュウキュウサンショウクイではないことが確認されている。
30. サンコウチョウ：2023 年 9 月 17 日・2024 年 5 月 17・24 日の 3 件の記録がある。武蔵野広場・サンショウオ沢で確認。本種は山地で繁殖する夏鳥で、秋と春の渡りの途中で本園を通過したものである。
31. モズ：2022 年 12 月 2 日～2024 年 10 月 31 日の間で 45 件の記録がある。そのうち、場所の記載があったものとしては、水生植物園で 12 件・路傍植物園で 3 件、中央湿地で 2 件が記録された。観察は 9 月～3 月の秋冬期で、記載があった雌雄の別は雌の事例 7 件・雄の事例 1 件である。
32. ハシブトガラス：2022 年 12 月 15 日～2024 年 10 月 31 年の間に 92 件の記録がある。全域から一年中観察記録がある。しかし、以前に比べると鳴き騒ぐ回数が減り、個体数は減っている。園内の樹木で営巣しているが、園路付近で営巣した場合は東京都の事業により撤去されている。
33. ヒガラ：2024 年 3 月 19 日に、水生植物園コースでの記録。山地に生息する小鳥で、冬期も都心の緑地に飛来することはあまりない。
34. ヤマガラ：2023 年 1 月 25 日～2024 年 10 月 24 日の間で 38 件の記録がある。そのうち、場所の記載があったものとしては、水生植物園 6 件・ひょうたん池 3 件。鳴き声での記録が 12 件。通年で観察報告があり、以前に比べ個体数が増加し、繁殖も

していると思われる（川内・川内，2024）。

35. シジュウカラ：2022 年 11 月 27 日～2024 年 10 月 31 日の間で 121 件の記録がある。留鳥として、園内全域で囀り・姿・声で確認されている。しかし、最近さえずりを聞く回数は減っていて（川内・川内，2024），また、ヒナ連れなど繁殖に関する情報が寄せられていない。
36. ヒヨドリ：2022 年 12 月 1 日～2024 年 10 月 31 日の間で 118 件の記録がある。全域で記録があり、姿・声での確認がほとんどである。ただ食性や繁殖についての情報は寄せられていない。
37. ツバメ：2023 年 4 月 13 日～2024 年 7 月 18 日の間に 12 件の記録がある。夏鳥として 4 月～7 月の間で水生植物園やサンショウオ沢で観察されている。園周辺のビルで営巣を 3 か所認めている。
38. ウグイス：2022 年 12 月 8 日～2024 年 4 月 25 日の間に 37 件の記録がある。藪を潜行するため、多くは地鳴きでの確認で、さえずりは 1 件。個体数は 5 羽程度と思われる。最近平地部の緑地での営巣がみられるが、本園での記録は 11 月～4 月で冬鳥である。
39. エナガ：2022 年 11 月 27 日～2024 年 10 月 31 日の間で 55 件の記録がある。留鳥で観察場所は園内全域で、2023 年 3 月 15 日には三叉路付近など 4 か所で営巣確認という報告もある。また、2024 年 4 月 20 日に巣立ちヒナが観察されている。
40. センダイムシクイ：2023 年 5 月 18 日～2024 年 9 月 18 日の間に 6 件の記録がある。中央湿地、路傍植物園、ひょうたん池などで観察されている。本種は山地で繁殖する夏鳥で、本園を春と秋に通過していく。
41. エゾムシクイ：2023 年 5 月 11 日、2024 年 5 月 16 日の 2 件記録されている。本種は山地で繁殖する夏鳥で、春の渡りの途中での記録。個体数はいずれも 1 羽と思われる。
42. メジロ：2022 年 12 月 6 日～2024 年 10 月 31 日の間で 100 件の記録がある。そのうち、場所の記載があったものとしては、路傍植物園での確認が 21 件。さえずり・声での確認が 41 件。過去には古巣も発見されているが、繁殖に関する情報はない。
43. ミソサザイ：2023 年 3 月 11 日、物語の松近くの枯木伐採跡で記録されている。
44. ムクドリ：2023 年 5 月 14 日・7 月 6 日に、路傍植物園で鳴声が聞かれている。本種は市街地にふつ

うにいる鳥だが、園内ではほとんど認めない。

45. **トラツグミ**：2024年2月1日～2024年3月13日の間に9件の記録がある。同一個体を思われる。水生植物園でも観察され、ヒヨドリに交じていたこともある。都心部の緑地に冬鳥として飛来することがある。
46. **シロハラ**：2022年12月15日～2024年4月25日の間に34件の記録がある。冬鳥として、11月～4月の間に園内全域の林床などに生息している。
47. **アカハラ**：2023年3月23日と2024年4月20日に2件の記録がある。いずれも路傍植物園で、別々の方の記録である。東京都心部の緑地では冬鳥として少数記録される。
48. **ツグミ**：2023年1月18日～2024年2月6日の間に20件の記録がある。冬鳥として11月～4月の間に園内の全域で見られている。ソメイヨシノで虫を食べる・イイギリの実を食べていたなどの報告がある。
49. **エゾビタキ**：2023年9月26日、2024年10月3・10日の3件の記録がある。本種は山地で繁殖する夏鳥で、秋の渡りの時期の観察である。個体数はいずれも1羽と思われる。
50. **サメビタキ**：2023年9月17日・26日の2件の記録がある。水生植物園の並木で観察され、写真も撮られている。本種は山地で繁殖する夏鳥で、秋の渡りの際に本園を通過していったものである。
51. **コサメビタキ**：2023年9月20日・26日と2024年10月3日の3件の記録がある。武蔵野植物園と水生植物園付近での観察。本種は山地で繁殖する夏鳥で、秋の渡りの際に本園を通過していったものである。
52. **オオルリ**：2023年4月19日・2024年4月6日の2件の記録がある。本種は山地で繁殖する夏鳥で、春の通過時の観察である。
53. **マミジロキビタキ**：2024年6月27日に、水生植物園で複数の方によって確認された。個体数は雄1羽で、比較的珍しい記録である。
54. **キビタキ**：2023年9月20日～2024年10月31日の間で19件の記録がある。時期は9月～10月と4月～5月の秋と春で、全域で記録されている。本種は夏鳥で山地の森林で繁殖するが、近年、東京23区内での繁殖も知られている。
55. **ルリビタキ**：2022年12月3日～2024年2月1日の間に15件の記録がある。西トイレ付近、物語の

松付近などで記録。雌6件・雄1件が観察されている。

56. **ジョウビタキ**：2022年12月2日～2024年3月19日の間に26件の記録がある。冬鳥として11月～3月に水生植物園、武蔵野植物園、作業舎付近などで1～2羽が観察されている。
57. **スズメ**：2023年5月18日～2024年7月25日の間に25件の記録がある。正門から三叉路に続く路傍植物園での観察がほとんどで、他には中央湿地、武蔵野植物園での記録がそれぞれ1例あるだけである。一般には普通種であるが園内では多くなく繁殖もしていない。
58. **キセキレイ**：2022年12月2日～2024年10月22日の間に11件の記録がある。観察地は水生植物園・ひょうたん池・いもりの池など水辺であるが、路傍植物園の杭の上という例もある。筆者はサンショウウオ沢で観察したことがあるが少ない。
59. **ハクセキレイ**：2023年6月25日に1件の記録がある。しかし、市街地では普通種であるので、筆者らのセンサスの結果などを含めて今後検証したい。
60. **シメ**：2022年12月23日～2024年4月17日の間で22件の記録がある。冬鳥として10月～4月の期間に園内の各所で姿や声で確認されている。オオタカの古巣に設置されたライブカメラに巣内の何かを食べる様子が撮られている。
61. **ウソ**：2023年11月12日～同12月17日の間で10件の記録がある。観察場所は中央湿地・水生植物園、いもりの池～水鳥の沼、ひょうたん池など観察されている。個体は雄で1羽と思われる。近年園内への飛来が少なくなっている。
62. **カワラヒワ**：2023年11月8日・2024年3月25日の2例の記録がある。市街地では普通種であるが、園内ではほとんど見かけることがない。
63. **イスカ**：2023年10月26日に中央湿地で8羽（雄5羽・雌2羽・性別不明1羽）が記録・撮影された。本種の記録は園内では初記録として報告されている（川内、2024）。
64. **ホオジロ**：2023年3月1日に中央湿地で記録されている。草原や田園では留鳥だが、本園を通過していったと思われる。
65. **カシラダカ**：2023年11月23日に記録されている。冬鳥として飛来する小鳥で、本園を通過していったと思われる。個体数・場所は不明。
66. **アオジ**：2022年11月27日～2024年3月7日の間

に42件の記録があり、11月下旬から4月上旬までの記録で、冬鳥として園内全域で記録されている。植栽の中や道などで、小群で採食している姿を見かけるほか、地鳴きでの確認例が多い。

67. クロジ：2024年1月17日～2月28日の間に6件の記録がある。冬鳥として少数飛来し、いもりの池や水鳥の沼近くの水路で観察されている。
68. カワラバト（ドバト）※：2023年5月11日～2024年9月19日の間に22件の記録がある。周年観察され、その半数は路傍植物園である。個体数は10羽以下で、園路で見かけることが多い。
69. ワカケホンセイインコ※：2023年1月8日～2024年6月19日の間で15件の記録がある。路傍植物園での記録が多く、ムクロジ・カラスザンショウ・ムクノキなどに止まっていた、カラスザンショウ、ムクノキの実を集団で食べていたなどの観察がある。
70. ガビチヨウ※：2023年5月13日・7月5日の2件の記録がある。外来種で最近都心部の緑地でも記録が増えている。本園では初記録と思われるので確認中。

〔※：人為的に導入された種〕

謝 辞

本稿のもととなった動物記録情報の作成において、岡田朋子氏、賀島 勇氏、宍戸奈生子氏、島田 一氏、本多菊太郎氏をはじめとする情報提供者の皆様に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 遠藤拓洋. 2024. 自然教育園におけるオオタカの繁殖記録（2023年）. 自然教育園報告（56）：15-22.
- 濱尾章二・遠藤拓洋・西海 功. 2019. 東京都心の自然教育園で繁殖したオオタカの抱卵と育雛行動. 自然教育園報告（51）：13-18.
- 樋口亜紀・川内 博・井上裕由・遠藤拓洋. 2024. 自然教育園におけるフクロウ（*Strix uralensis*）の生息状況とオオタカ（*Accipiter gentilis*）巣への訪問. 自然教育園報告（56）：33-42.
- 川内 博・遠藤拓洋・本多菊太郎・島田 一. 2019. 自然教育園におけるオオタカの初繁殖について. 自然教育園報告（50）：57-60.
- 川内 博・大塚 豊・丹羽和夫・川内桂子. 2016. 自然教育園における2010年代前半の生息鳥類について. 自然教育園報告（47）：29-51.
- 川内 博. 2024. 自然教育園におけるイスカの初記録について. 自然教育園報告（56）：49-50.
- 川内 博・川内桂子. 2024. 自然教育園におけるシジュウカラとヤマガラ繁殖期の個体数について（2023年度）. 自然教育園報告（56）：43-48.
- 日本鳥学会. 2024. 日本鳥類目録 改訂第8版. 日本鳥学会. 506pp.